

令和5年度 看護力向上支援事業報告

認知症看護認定看護師の支援を受けて

医療法人伸裕会 渡辺病院

看護部 中 智子

志賀 真規

小澤 晃子

当院の課題

1. 認知症のある患者の対応についての知識と対応力不足がある。
2. 事故防止優先のために過剰な身体拘束をすることで患者に苦痛を与え、不必要な行動制限を行うことがある。
3. 認知症ケア加算取得に向けての情報不足と体制が整っていない。

目標

1. 認知症の基本知識と認知症の人への対応方法を学び看護職員に意識づけができる。
2. 身体拘束のアセスメントや対応方法ができる。
3. 認知症ケアマニュアル作成に繋げることができる。
4. 認知症ケア加算の取得に繋げることができる。

支援の実際

	認知症勉強会テーマ	参加人数
第1回目 7月13日	認知症とは ～基本知識と病態～	看護職17名
第2回目 8月10日	身体拘束について ～アセスメントと倫理～	看護職13名
第3回目 9月14日	認知症の人への対応の仕方について	看護職16名
第4回目 10月5日	認知症ケア加算について	看護職17名
第5回目 11月15日	せん妄について ～基本知識と対応～	看護職12名

- ・ 打ち合わせ
- ・ 勉強会



- ・ 患者選定
- ・ 情報提供
- ・ 病棟ラウンド（3病棟）
- ・ 認知症患者の状態観察



- ・ 支援
- ・ カンファレンス
- ・ 振り返り

支援後の意識・ケアの変化

認知症看護の知識を深め対応方法を学ぶことができた

間違いを否定や注意しないよう自尊心に配慮するようになった

患者が入院前に使用していたなじみやすい物やカレンダー、時計を置き、見当識を保つための環境を作るようになった

身体抑制の必要性を考えるようになった。また身体カンファレンスで不要な抑制を外すようになった

医療法人 仰光会
イメージキャラクター



わーたん

午睡し不眠になる高齢認知症患者に対しては、日中の覚醒や活動を促したり、日光浴を意識的に行い、生活リズムを整えるようになった

リアリティオリエンテーションを実践し、今を伝えるようになった

患者が理解しやすい言葉で簡潔を意識して話すようになった

昔話を傾聴し話を合わせ、共感している

研修後の対応・研修の様子

研修後の対応(一例)

患者の見える位置にカレンダーを貼り、予定をわかりやすく、付箋に記入して貼り、一緒に確認することで、混乱を避け、理解を得ることができるようになった。

卓上カレンダー、時計、家で使っていた物、興味がある物を家族に依頼し、見当識を保つための環境を作り心をかけて実践するようになった。

研修の様子



明確になった課題

- ・認知症マニュアルがないため作成して活用する。
- ・認知症研修会で学び得た知識を周知し、院内での教育を行う必要がある。
- ・認知症患者への対応力と看護ケアを見直し、統一をする。
- ・事故防止優先での身体拘束を行っていたが身体拘束をしない認知症ケアに取り組む。

今後継続していくために

- ・認知症研修会に参加した看護師が学び得た知識を院内で伝達講習を実施する。
- ・認知症のある人への対応力と看護ケアを統一し、人権を尊重する看護に取り組む。
- ・認知症マニュアル作成に向けて着手したので、完成させて活用する。
- ・認知症ケア加算の運用開始ができるように職員への教育を行い理解を深める。